

平成 28 年度 学校経営目標と学校評価の推進

本校は「開拓の精神」を建学の精神とし、「整々たる校風」のもと、知・徳・体のバランスのとれた全人教育の視点に立ち、心豊かに逞しく生きる人間教育を志向した「創成の教育」を推進してきた。創立から半世紀が過ぎ、「進化する創成高校」を「S O S E I システム 2. 0」として始動させ、全教職員が「学校経営方針」のもと、学び続ける教師集団として「創成の教育」の更なる向上に努める。

1 学校運営					
校長の経営方針	分掌・センター等の関連項目・主な取組	中間総括（10月期）	年度末総括（評価）	備考	担当分掌等
<p>①校内の組織力を生かす。各組織は緊密な連携のもとに迅速に情報を共有し、機能的且つ効果的な教育活動を推進する。</p> <p>②「教育構想企画室」の機能を強化する。学校経営方針及び重点事項、学校評価に関する事項、今後の展望等について、未来志向に立った課題を検討する。</p> <p>③教育環境を整える。ICT（情報通信技術）環境と機器の整備を計画的に行い、実施に当たっては効率化と情報セキュリティの強化を図る。</p> <p>④危機管理対応については本校のマニュアルを基本に迅速に誠意をもって関係機関と連携し、適切に対応する。</p> <p>⑤国際理解教育の推進。グローバル化に伴い、姉妹校との交換留学、海外研修等、国際交流を推進し、異文化理解と自国文化の再認識を図る。</p>	<p>①総務部の諸行事や所轄業務の遂行に当たり各組織と連絡・調整を図り、円滑に企画運営する。</p> <p>②校長の諮問機関として、本校の将来構想を含め、諸課題について検討する。</p> <p>③ICT委員会を中心に、情報機器の環境整備に努め、生徒及び教職員の活用環境の向上に努める。</p> <p>④多様化・深刻化する危機に備え、適切に対応するために、危機管理の意識を全教職員が共有し対応する。</p> <p>⑤交換留学や語学研修、及び報告会等の諸行事を通して、国際理解教育の推進を図る。</p>	<p>①行事について、各組織との連携を取りながら進めることができた</p> <p>②総合コースの在り方について小委員会を起し検討に入っている。</p> <p>③Classiによる成績処理は、初年度であるために混乱が多かった。後期は出来得る限りの改善を図らなければならない。</p> <p>④9月に「体罰対策検討委員会」及びいじめ対策検討委員会」の項目を加えて新しい危機管理マニュアルを作成した。今後更に充実させたい。</p> <p>⑤姉妹校校長、外部留学生の訪問、イングリッシュキャンプ、暗唱コンテストなど各種行事に精力的に取り組んだ。諸行事における生徒の活躍も目覚ましい。</p>	<p>①行事の目的を再確認、生徒の関わり方などもより検討すべきである</p> <p>②小委員会も含めて、十分に検討を進めることができなかった。</p> <p>③前期の反省から混乱を出来るだけ軽減させたがまだ途上である。次年度は使い勝手を向上させたい。</p> <p>④9月に「体罰対策検討委員会」及びいじめ対策検討委員会」の項目を加えて新しい危機管理マニュアルを作成した。今後より一層、未然防止の取組を推進したい。</p> <p>⑤N Z 語学研修は現地での諸活動を充実させ、当初の目標を達成した。交換留学受入れについては、ホームステイ家庭の不足への対応など課題が残る。</p>		<p>総務部</p> <p>企画室</p> <p>情報システム</p> <p>教頭</p> <p>国際教育センター</p>
2 学習指導・教育課程					
<p>①新学習指導要領に基づき、本校の教育方針に則った教育課程を編成する。</p> <p>②教科は三カ年を見通しつつ、組織的に基礎学力の定着と発展的な学習指導法を確立する。</p> <p>③教師は、生徒個々の多様な能力と適性に対応した授業を工夫改善する。</p> <p>④授業時数の確保に努める。授業のカットは最小限に止める。</p> <p>⑤生徒の自立的な学習意欲を喚起し、主体的な「学び」へとつなぐ学習方法を工夫し、学力向上を図る。（家庭学習時間は必須）</p>	<p>①生徒の能力・適性・進路を把握するとともに、社会の変化等に対応できる教育課程の編成に努める。</p> <p>②生徒が自主的に学習する態度を育成するとともに、三カ年間を見通して組織的に取り組ませる。</p> <p>③生徒にやる気を起こさせる授業態勢づくりに努めるとともに、教員の実践的な指導力の向上を目指す。</p> <p>④学校行事の精選を図り、授業時数の確保に努める。</p> <p>⑤生徒に興味・関心を抱かせる授業内容を工夫改善し生徒の自主性と学力向上を図る。</p>	<p>①平成29年度教育課程を編成した。平成30年度教育課程に早くから取り組む必要がある。</p> <p>②基礎力テストの結果を真摯に受け止め、基礎学力の定着を図らなければならない。</p> <p>③授業公開月間を設け、教師同士の研鑽の場とした。生徒の学習意欲が湧く授業づくりが必要である。</p> <p>④必要最低限の授業カットであったと思うが、特定の曜日の時間のカットが多かった。</p> <p>⑤毎日の小テストや課題を継続して実施することが有効である。</p>	<p>①高大連携システム改革の動向を念頭に置きながら、平成30年度教育課程を編成する。</p> <p>②学び直しのあり方を再協議し、基礎学力定着に向けて今後も取り組んでいく。</p> <p>③授業が主体的な「学び」になるように、教科で連携を強めたい。</p> <p>④メリハリのある行事・授業の配分を次年度に心がける。</p> <p>⑤ICTを活用した授業実践を行うことにより、生徒に興味・関心を抱かせることができる。今後も研修が必要である。</p>		<p>教務部</p> <p>教務部</p> <p>教務部</p> <p>教務部</p> <p>教務部</p>

3 進路指導				
<p>①生徒の進路目標を早期に設定させ、三カ年を見通した系統的な指導を行い、進路意識を高め、個々の生徒の進路実現を図る。</p> <p>②生徒一人ひとりの可能性を最大限に伸ばし、ワンランク上を目指す進路指導を目指す。</p> <p>③STI/SAGコースの進路マネジメントを強化し、国公立大学・難関私立大学への現役合格を達成するよう進学指導体制を強化する。</p>	<p>①三年間を見通した進路指導を系統的に行い、生徒の多様な目標の実現を支援する。</p> <p>②生徒の可能性を最大限に伸ばし、ワンランク上を目指すため、学年、教科、分掌との連携を密にして、木目の細かな進路指導を推進する。</p> <p>③STI/SAGのコースの特性を踏まえて国公立大学・難関私立大学への合格を目指した。模試・講習の企画・運営・分析などを綿密に行い、生徒の進路指導を推進する。</p>	<p>①出前授業やブース式ガイダンスの実施に加え、SAG/STI対象の特進講話を実施し、進路意識の向上に努めた。</p> <p>②校外の研究会等に積極的に参加し高大接続改革等の最新入試情報を先生方へ提供することで生徒の視野を広げることに努めた。</p> <p>③合宿や講習など効果的な設定を目指して工夫した。SAGコースについては新規の取り組みに挑戦している。</p>	<p>①左記に加え、バスツアーや校外の進路ガイダンスにも積極的に参加し、さらなる進路意識の向上に努めた。</p> <p>②左記に加え、進路指導室の生徒閲覧用受験レポートを拡充した。また、3年生は推薦・AO対策の面接・小論文指導の充実や、模試をベースにした進路検討会・2次対策に力を入れた。</p> <p>③特進コースや国際コースからの国公立大学合格者を例年以上に出すことができた。SAGコースについては新規の取り組みを続けていきたい。</p>	<p>進路指導</p> <p>進路指導</p> <p>特進選抜</p>
4 生活指導				
<p>①生徒の規範意識を高め、規律正しい生活習慣の定着を図る。服装や挨拶・時間の管理・集団生活におけるルールやマナー等、全教職員で一致した指導に当たる。</p> <p>②自他の生命を尊重し思いやりの心を育み、いじめや体罰のない学校を推進する。</p> <p>③ボランティア活動を積極的に奨励する。</p> <p>④生徒に寄り添う指導、向き合う指導を通して自律的な生活態度を育成し、不祥事故を未然に防ぐ。</p>	<p>①服装や挨拶、集団生活におけるルールやマナー等を守らせ、規律正しい生活習慣を、教職員一丸となって指導を行う。</p> <p>②「命の尊さ」をしっかり認識させ、相手を思いやる心を育み、体罰やいじめのない、楽しく、充実した学校生活を推進する。</p> <p>③奉仕の精神を育み、積極的にボランティア活動に参加する姿勢を養う。</p> <p>④交通事故や自転車事故等の不祥事故防止と生徒が能動的に対応できる効果的な実践や研修を行う。</p>	<p>①年度当初に頭髪みだしなみ指導担当教員に対し指導の統一をはかった。結果として学年の差異なく勧められた。</p> <p>②各HR担任の細やかな指導と保護者との連携により小さいトラブルのうちに解決できている。</p> <p>③ボランティア部の活動、学校祭の清掃活動、その他各部活動で奉仕活動を積極的に実施している。</p> <p>④スクエアドストレイト交通安全教室の実施、交通安全街頭指導等を実施しており効果が見られている。非行事故が11件（うち懲戒指導対象10件）あり、未然防止に向け指導を強化していきたい。</p>	<p>①先生方の丁寧な指導により大きなトラブルもなく進められた。今後も生徒・保護者の理解を得られるよう努めたい。また非行防止の大切な指導と認識し毅然とした態度で継続していきたい。</p> <p>②ネットモラルを含め啓発し続けることが必要である。次年度も継続して進めていきたい。</p> <p>③各種行事での奉仕活動が定着している。また今年度はGLコースの通訳ボランティアも価値の高いものであった</p> <p>④非行事故13件（うち懲戒指導対象12件）は近年では少ない方だが、なお一層落ち着いた学校生活になるよう努めたい。</p>	<p>生徒指導</p> <p>生徒指導</p> <p>生徒指導</p> <p>生徒指導</p>
5 特別活動・部活動				
<p>①ホームルーム活動や学校行事、生徒会活動や委員会活動を充実させ、学校生活の活性化を図る。</p> <p>②部活動を奨励し、部活動への加入率を高める。</p> <p>③強化指定部は、学校を代表する部活動であるとの自負心をもって活動し、全道・全国への進出を目指す。</p> <p>④「朝の10分間読書」を生涯教育の一環として位置付け読書活動を推進する。</p>	<p>①生徒会行事を中心に、生徒会や委員会等の活動の活性化を図る。</p> <p>②学習と部活動の両立を目指すとともに、活発な部活動を推進する。</p> <p>③強化指定部は、確実に実力を付け、全道・全国で活躍できる選手の育成に努める。</p> <p>④読書指導を推進し、図書館の利用拡大と読書力を高めるとともに、学習活動の推進に努める。</p>	<p>①学校祭の盛り上がり、各クラスの内容は年々向上している。各行事における指導項目を毎回確認しより充実したものにしていきたい。</p> <p>②アドバンス特進では課外活動参加を含め全ての生徒が何らかの活動に参加している。総合コースでも積極的に部活動等に参加するよう計画していきたい。</p> <p>③野球部の秋季の全道大会進出をはじめとして着実に成果を出している。各行事での奉仕活動も積極的に実施してくれている様子は評価に値する。</p> <p>④読書への興味を抱かせるべく、文学作品を紹介する図書館だよりを複数回発行し、図書館利用を促した。</p>	<p>①年度当初の予定は滞りなく実施した。生徒会以外の係活動をなお一層活性化させ良きよう方策を見出していきたい。</p> <p>②経済的に厳しい家庭においても何らかの活動に興味を持ち参加できるように配慮していきたい。</p> <p>③各部の競技成績をより伸ばしていきたいよう体制を整えていきたい。また各種行事の際の奉仕活動も継続して励み人格形成にも寄与していきたい。</p> <p>④読書感想文コンクールや朝読書、図書館だよりの発行などにより、読書活動を推進したが、まだ改善の余地はある。</p>	<p>生徒指導</p> <p>生徒指導</p> <p>生徒指導</p> <p>図書部</p>

6 保健・安全指導	<p>①学校保健計画に基づき、保健管理と保健教育を適宜指導する。</p> <p>②日常の防火・防災意識を高め、安全管理を徹底する。</p> <p>③校舎内外の環境整備と美化に努め、施設設備・機器の保全に万全を期す。</p> <p>④生徒の心のケア等の健康管理については、保健室、学年、教育相談センターが連携し、適宜、外部の関係機関との連絡を取りながら指導にあたる。</p>	<p>①健康教育と保健管理の諸活動を通して生徒の健康の保持増進を図り、自己管理能力を育成する。</p> <p>②日常の防火・防災意識を高め、安全管理と安全避難の徹底を図る。</p> <p>③快適な学校環境をつくり、公共物愛護の精神の育成を図る。</p> <p>④生徒の心のケアには校内外の関係機関と連携して支援の充実を図る。また、アセスのデータ分析と改善方法の提案、心理教育の試行の取組をする。</p>	<p>①健康診断・健康相談の実施、来室生徒の状態から生活習慣・健康の実態を把握し健康管理を推進している。保健教育は、個別の保健指導やお便り等で健康の保持増進について啓発を行っている。しかし自己管理能力は個人差が大きく根気よく育成していかなければならない。</p> <p>②年間2回の避難訓練を実施した。防災に関わるビデオを視聴し防災意識を高め、安全に避難誘導することを徹底した。</p> <p>③校外の施設設備等の破損は少ないが校内では一部に悪戯される箇所がみられた。</p> <p>④通常業務は例年どおりに実施できた。しかし面接をする時間が十分にとれず、多様なニーズに応えるには相談を受ける側にも時間と余裕が必要である。アセスについては昨年同様に迅速な分析と報告ができていた。昨今心因性の問題で不登校になる生徒が増加しているため心理教育を多少実施しているが、継続的な指導の必要性を感じている。</p>	<p>①健康診断・健康相談の実施、来室生徒の状態から生活習慣・健康の実態を把握し健康管理を推進した。自己管理能力は個人差が大きく根気よく育成していかなければならない。</p> <p>②防火計画に基づき実施した。避難訓練の実施内容を工夫し、取り組みたい。</p> <p>③校舎内外の清掃は年間を通して、清掃活動の徹底・清掃点検等を行っていききたい。</p> <p>④生徒の話を聴く時間をもっと取れるようにしたい。多様なニーズに対応するにはそれしかない。アセスの結果を詳細に分析した。クラスやコースによって違いがあるが、本校の強味と弱味がよく理解できた。生徒にとって、より過ごしやすい学校にするために人間関係を良好にするトレーニングを実施していきたい。</p>	<p>保健環境</p> <p>保健環境</p> <p>保健環境</p> <p>教育相談</p>
7 研究・研修	<p>①教師は日々自己研鑽に努め、公開授業や研究授業、生徒による授業評価・アンケート等を活用して改善に努め、教師としての資質や力量を向上させる。</p> <p>②校内研修体制を充実させる。また、外部の研修会への参加や先進校視察を奨励し、研修内容を報告する。</p>	<p>①教師は、公開授業や研究授業を積極的に行い、アンケート調査等を謙虚に受け止めて生徒がわかる授業を心がけ、常に授業の工夫改善に努める。</p> <p>②校内研修の内容を充実させ、教科・分掌・学年の自主的・自発的な研修を推進するとともに、教員の実践的な指導力の向上を目指し、主体的・意欲的な研修の推進に努める。</p>	<p>①6月に「よりよい授業アンケート」を実施。生徒の声に耳を傾け、授業改善を図るよう努めている。</p> <p>②外部への研修会や視察を奨励し、教員の指導力向上を目指した。</p>	<p>①年2回の「よりよい授業アンケート」を実施した。専門機関に分析を依頼し、教師の資質向上を目指すべきである。</p> <p>②高教研や外部の研修へ参加する教員が固定化されてきている。年1回は全職員が外部研修に参加するよう義務化すべきか。</p>	<p>教務部</p> <p>教務部</p>
8 広報活動・募集活動	<p>①日常の教育活動が生徒募集活動に直結しているとの認識で、生徒・保護者の満足度を高める教育活動を展開する。</p> <p>②効果的な広報活動・募集活動を展開し、応募倍率の維持・増加を目指す。</p> <p>③学校HPを活用して生徒の活躍（学習・諸行事部活動等）の様子をタイムリーに掲載する。また、広報誌「ぷらたなす」「ちょっといい話」、学校案内「TRY！」等の発行を通じて本校の教育を外部へ発信する。</p>	<p>①STI/SAGコースの増員を目指し、あらゆる機会・手段を有効活用し積極的な広報活動に努める。</p> <p>②生徒募集の実質的な成果を上げるため、中学校及び塾と一層の連携強化を図る。</p> <p>③HPを通して、生徒の学習活動や学校生活、部活動等を広く伝え、本校の効果的な広報活動に繋げる。</p>	<p>①見学会等では個別相談ブースをS・A・G専用で設け、S選抜及び、A特の担任を相談員としたことでより具体的な相談ができた。</p> <p>②今年度はネタが十分にある年であったので、期待ができる。</p> <p>③HPを通しての情報発信は、昨年に引き続き活発に行っている。今後とも継続していきたい。</p>	<p>① 中間総括の段階で手ごたえはあったが、実際に開校以来初めて、受験者内訳で総合コース以外のコースが過半数を超えた。</p> <p>② 昨年度よりも受験者数は増えたが希望の1800名には届かなかった。</p> <p>③ 今年度もHPや広報誌による外部発信を滞りなく行うことが出来た。</p>	<p>入選対策</p> <p>入選対策</p> <p>情報システム</p>

9 その他				
観 点	取組の概要	外部評価(意見・要望・改善事項)	備考	担当分掌等
①教職員は高い倫理意識を持ち、法規・法令・服務規程を遵守しなければならない。 ②教職員は互いに理解と信頼によって結ばれた協働体制の確立に努め、明るい職場環境づくりを心がける。 ③教職員は、学校経営への参画意識を持ち、意欲と活力に満ち、熱意と使命感を持って業務を遂行する。	①教職員、特に教員は専門職としての倫理意識を高め生徒指導に当たる必要がある。体罰の厳禁、心のケアの対応、金銭等の幅広い倫理感や服務規程についての研修が急務である。 ②組織の一員としての意識や協働体制の意義を再確認する研修と、創成高校の長期展望や創成でやる気を起こす「生き甲斐」を持たせる必要がある。 ③職員が学校経営の「参画意識」を高め、本校の長期的展望を持って、時流に応じた取り組みの方向性を具現化する必要がある。	① 現在町内会や父母の会の意見を聴取している。危機管理マニュアル(H25年作成)に、「いじめ対策検討委員会」「体罰対策検討委員会」を新たに規定し設置した。組織として位置づけたい。今後も「いじめや体罰の防止」を組織的に推進していきたい。 ②組織の一員としての認識を高めるとともに、本校の目指す方向性を常に確認し「協働体制」をより強固にしていきたい。そのためにも総務部としての連絡調整を一層深めたい。 ③私立高校で「経営参画意識」を持つことは重要である。今後も各分掌や委員会等をとおして、長期的な展望に立った議論を重ねる中で、「経営参加意識」を高めたい。		教 頭 総務部 教 頭
10 本校の近隣3町内会と連絡協議会を実施し、町内会から生徒に関する率直な意見を聴取する。				
観 点	取組の概要	外部評価(意見・要望・改善事項)		
①生徒の通学状況及び下校の様子 ②自転車通学のマナーの様子 ③服装や身だしなみの様子0	①毎年、6月に実施し、平成28年度は通算して24回目となる。 ②参加者は、町内会、父母の会役員、生徒会役員及び本校の教職員の約20数名で実施している。	①毎年「近隣3町内会と連絡協議会」を実施し、生徒の通学状況・下校の様子等の意見をいただいた。総じて好意的かつ良好な意見が多かった。また自転車マナーについても、各町内会からの意見は良好であった。しかし、苦情電話で「地下鉄の乗車マナーの悪さ」「自転車の乗車マナーの悪さ」が数件有り、全校集会で注意を喚起したこともあり、今後も継続した指導が必要である。 ②今後も地域社会と連携を図るとともに、地域社会の協力を得て生徒指導などを推進していきたい。		
11 保護者懇談会(7月下旬から8月上旬)を実施し、学校・家庭との連携を一層図りながら学習指導・生徒指導の充実を図る。				
①保護者と担任との意見交流 ②家庭及び学校での生活の在り方 ③家庭と学校との情報の交換及び強化等	①夏季休業期間に全校生徒を対象にして、2者懇談及び3者懇談(生徒・保護者・担任)を行っている。 ②進路相談や生活相談など広範囲に渡り、生徒理解を進めている。	①夏季休業期間に「三者懇談会」を実施している。クラブを担当している教員は、休業前から計画的に保護者と懇談をしてこともある。担任と保護者の連携は重要、かつ必要なことから、多くの保護者が参加できる状況を作り、より一層推進したい。 ②「担任と保護者」の関係を重視したい。保護者と担任・副担任等を交えた、「学級懇談会」や保護者を交えた「学年保護者会」的な会合も必要となってきた。		
12 保護者授業参観日(10月下旬)を実施し、生徒の実態や授業の様子・部活動の指導の在り方などを見学するなどして、本校へのよりよい理解を得る。				
①授業や部活動等の参観 ②学校教育への関心度の契機	①平常の授業及び部活動の様子など参観対象である。 ②参観者からは、生徒の様子や教員の教育活動など率直な感想や意見が寄せられている。	①保護者の「授業参観日」は教務部で実施。意見やアンケートの回答では好意的な意見が多かったが、中には厳しい指摘もあり、真摯に受け止める必要がある。今後はより多くの保護者が参加できる時期・内容を検討する必要がある。更にクラブ活動等の参観もできるよう、新たな機会と時期等を検討していきたい。 ②「公開授業」でのアンケートを実施しているが、多くの保護者の「教育活動」への参加について、次年度は各分掌とも議論して推進していきたい。		
13 「よりよい授業」をするために、生徒による授業評価アンケートを全教員・全科目を対象として実施し、より効果的な授業改善を図る。				
(生徒の学習への取組) ①授業内容の理解、約束事の遵守 ②授業への集中、教材の準備 ③課題や小テストなどの提出等 (教員の授業改善) ①教材の研究や教材の工夫 ②板書や話し方、説明の工夫 ③興味や関心、質問の工夫等	①アンケートは、年間に2回(6月上旬・12月上旬)実施し、生徒が受けている全ての授業を対象としている。授業担当者に対する評価、授業を受けている生徒の自己評価、授業に対する興味・関心など生徒に4段階で評価させている。 ②自由記述欄を設けて「授業の良い点や改善して欲しい点」などを率直に生徒に書かせている。アンケート結果については内容の一部を保護者にも公表し、教員側のよりよい授業改善に向けた授業評価として実施している。	①「よりよい授業」をするためのアンケート調査を実施している。今年は担当者の創意で「新たな記入法」を取り入れた。しかし、アンケートの処理や分析をより精度の高いものや、教師力、特に授業力の「評価」を重視するならば、自校での処理には限界があり、専門業者の「授業評価等」を導入する必要がある。 ②担当者の創意も入れて、「よりよい授業のアンケート調査」を実施した。個々の生徒が「教師の授業」をどの様に捉えているか、またその意見をどの様に改善に結びつけていくかが「今後の課題」である。今後は専門業者の「授業評価・教師評価」の導入を考える時期に来ている。		
14 保護者及び地域社会に開かれた広報活動を推進し、本校に対する理解を促進する。				
①適宜、適切な情報の提供 ②学校理解の促進 ③学校の門戸開放 ④学校及び家庭等の地域の教育力の向上等	①札幌創成高等学校ホームページの更新を適宜・適切に行い常に新しい情報により、本校の教育活動への理解と協力を求め情報宣伝活動に努めている。 ②サロンコンサート・図書室開放などにより、保護者・地域社会へ積極的な学校公開(解放)に努めている。	①創成高校のHPをはじめ、「ぶらたなす、ちょっといい話、体育文化だより」等の広報活動を推進してきた。今後は各町内会にも広報物の配布を拡大する等について検討したい。 ②毎年実施の「サロンコンサート」は好評である。また「バレンタイン・ステージ」も多くの保護者に来ていただき感動を与えていた。今後も継続して推進したい。		